

新年を迎えました。
皆様、本年も宜しく願いいたします。

2017年は日本離床研究会にとって、
大きな一歩を踏み出した1年となりました。

10月に一般市民向けの公開講座が開催され、
教育活動が始まったのです。

これまで当会は、医療従事者向けに教育を行い、
寝たきりの弊害、離床の重要性について啓発活動を行ってききましたが、
それだけでは円滑な離床は進みません。

患者さんが入院前から離床のことを理解し、
入院しても率先して起きてくれれば、これほど素晴らしいことはありません。

日本離床研究会は今後、医療従事者への教育だけでなく、
一般市民の啓発活動にも注力し、
皆さんと共に日本独特の“寝たきり文化”を変えていこうと考えています。

その活動の一環として、
「一般市民教育コース」が新設されました。

離床インストラクター取得後に進めるコースで、
当会からプレゼンテーションスライド・印刷資料を提供し、
各地域で一般市民に教育を行っていただくプログラムです。

講師を目指す方向けの講師コースに加え、
新たに新設されたので、
是非、資格を目指されている方は将来の目標の一つにさせていただけると幸いです。

また、今年は当会の教育指針をまとめたガイドラインが出されます。

離床を行うために必要な知識は幅広く、
いざ学ぼうと思っても、
これまで系統立った教育システムは存在しませんでした。

日本離床研究会はこれまで13年かけて培ってきた教育内容を体系化し、
安全な離床を実現するために必要な知識・技術について、
第三者が評価可能で、セルフチェックもできるシステムを構築しました。

今年6月までに公開できるよう、
現在仕上げの作業を行っておりますので、

ご期待ください。

また、新たな試みとして、
FM 離床がスタートする予定です。

FM 離床といっても本当にラジオの電波を使用しての放送番組を作るのではなく、
インターネットサイトに収録された音源を、
皆さんの都合の良い時間に聴いていただく形の情報番組です。

当会は、臨床・学術の情報発信基地でありたい、
そう考えて長年活動してきました。
インターネットの普及とともにその発信形式はどんどん変化してきました。

今後はこうしたツールを用い、
海外からの最新情報や、臨床お悩み相談、
ゲストを交えた笑いあり・涙ありの離床エピソードコーナーなど、
盛りだくさんのコンテンツで、
皆さんに情報をお伝えしていければと考えています。

この他、新書籍の出版、
離床に関する国内・国際調査の論文化、
会誌「EMJ: Early Mobilization Journal」における特集記事の新設など、
様々なことを実現していきます。

今年も日本離床研究会は、
皆さんと共に“前へ”進んで参りますので、
変わらぬお力添えをお願いいたします。

一般社団法人 日本離床研究会
代表理事 曷川元